

英 文 学 研 究

第百一巻

目 次

論 文

- “Let the stricken deer go weep”
——*Hamlet* と誹謗中傷の詩学 竹 村 はるみ 1
(“Let the stricken deer go weep”: *Hamlet* and
the Poetics of Defamation) (TAKEMURA Harumi)
- 隠喩としての皮膚病
——*Nineteen Eighty-Four* における
静脈瘤潰瘍をめぐって 大 西 寿 明 19
(Skin Diseases as Metaphor: A Varicose Ulcer
in *Nineteen Eighty-Four*) (ONISHI Toshiaki)
- 冷戦期のパッシングする語り
——J. D. サリンジャーの *Glass Family Stories*
におけるメデューサの首 千 田 元 康 37
(A Cold-War Passing Narrative: The Motif of
Medusa’s Head in J. D. Salinger’s *Glass Family Stories*) (CHIDA Motoyasu)

書 評

- 山田昭廣著『シェイクスピアはどのようにしてシェイクスピアとなったか
——版本の扉が語る 1700 年までのイギリス演劇』..... 五十嵐 博 久 55
- 野呂有子監訳、金子千香訳『ジョン・ミルトンのラテン語詩全訳集
——ラテン語詩原典の比較対照版テキスト
(1645 年版、1673 年版) 付』..... 高 谷 修 60
- 鈴木実佳著『淑女のたしなみ・貴婦人の愉しみ
——書簡から読み解く、ある 18 世紀イングランド
上流女性の日常』..... 川 津 雅 江 64

目 次

小川公代・吉野由利編『感受性とジェンダー ——〈共感〉の文化と近現代ヨーロッパ』	高 桑 晴 子	68
佐藤和哉著『〈読む〉という冒険 ——イギリス児童文学の森へ』	芦田川 祐 子	72
John Owen Havard, <i>Disaffected Parties: Political Estrangement and the Making of English Literature, 1760-1830</i>	西 山 徹	76
Malcolm Andrews, <i>A Sweet View: The Making of an English Idyll</i>	Nanako KONOSHIMA	80
海老澤豊著『諧謔の詩神 ——英国十八世紀のバールスク詩を読む』	福 本 宰 之	86
Jeffrey N. Cox, <i>William Wordsworth, Second-Generation Romantic: Contesting Poetry after Waterloo</i>	樋 渡 さゆり	91
Saeko Yoshikawa (ed. with Introd. and Notes), <i>William Wordsworth: Guide to the Lakes</i>	安 藤 潔	95
海老根宏著『英国一九世紀小説の光景 ——海老根宏文学論集』	新 野 緑	100
川崎明子著『人形とイギリス文学 ——ブロンテからロレンスまで』	西 垣 佐 理	104
Alistair Robinson, <i>Vagrancy in the Victorian Age: Representing the Wandering Poor in Nineteenth-Century Literature and Culture</i>	田 中 孝 信	108
高橋和久著『別の地図——英文学的小旅行のために』	丹 治 愛	113
菊池かおり・松永典子・齋藤一・大田信良編著 『アール・デコと英国モダニズム ——20世紀文化空間のり・デザイン』	長 島 佐恵子	118
荒木映子著『祖国のために死ぬこと ——第一次世界大戦の〈英国〉の文学と文化』	河 内 恵 子	122
武藤浩史著『D. H. ロレンス研究 ——小説・思想・本文校訂』	麻 生 えりか	126
金井嘉彦・吉川信・横内一雄編著『ジョイスの挑戦 ——「ユリシーズ」に嵌る方法』	田 村 章	131
レベッカ・L・ウォルコウィッツ著、佐藤元状・吉田恭子監訳、 田尻芳樹・秦邦生訳『生まれつき翻訳 ——世界文学時代の現代小説』	武 藤 浩 史	136

目 次

小林瑠音著『英国のコミュニティ・アートとアーツカウンシル ——タンポポとバラの攻防』	太 下 義 之	141
田尻芳樹著『J・M・クツツエー ——世界と「私」の偶然性へ』	中 井 亜 佐 子	146
小澤奈美恵著・訳、大島由起子訳 『アメリカン・ルネッサンス期の先住民作家 ウィリアム・エイプス研究 ——甦るピークオット族の声』	竹 内 美 佳 子	150
高橋利明著『ホーソーン文学への誘い ——ロマンスの磁場と平衡感覚』	岡 本 晃 幸	154
西谷拓哉・高尾直知・城戸光世編著『ロマンスの倫理と語り ——いまホーソーンを読む理由』	古 井 義 昭	159
塚田幸光編著『メディアと帝国 ——19世紀末アメリカ文化学』	大 島 由 起 子	164
村山淳彦著『ドライサーを読み返せ ——甦るアメリカ文学の巨人』	木 原 健 次	168
松本昇監修、深瀬有希子・常山菜穂子・中垣恒太郎編著 『ハーレム・ルネサンス ——〈ニュー・ニグロ〉の文化社会批評』	西 本 あ づ さ	173
佐藤亨・平野順雄・松本真治編『四月はいちばん残酷な月 ——T.S. エリオット「荒地」発表 100 周年記念論集』	諏 訪 友 亮	178
伊藤詔子・中野博文・肥後本芳男編著 『アメリカ研究の現在地——危機と再生』	鈴 木 一 生	181
相田洋明編著『ウィリアム・フォークナーの日本訪問 ——冷戦と文学のポリティクス』	竹 内 理 矢	186
邵丹著『翻訳を産む文学、文学を産む翻訳 ——藤本和子、村上春樹、SF 小説家と 複数の訳者たち』	畔 柳 和 代	190
Christoph Anton Xaver Hauf, <i>Verbs of Speaking and the Linguistic Expression of Communication in the History of English</i>	佐 藤 桐 子	195
Mark Faulkner, <i>A New Literary History of the Long Twelfth Century: Language and Literature between Old and Middle English</i>	狩 野 晃 一	199

目 次

米倉綽著『シェイクスピアはどのような方法でことばをふやしたのか
——初期近代英語における語彙の意味と構造』……………古 庄 信 202

雑 録

日本英文学会第 47 回新人賞選評・第 48 回新人賞規程…………… 209
寄贈本一覧…………… 217
『英文学研究』投稿規程…………… 220
編集委員会からのお知らせ…………… 225
2024 年度役員一覧…………… 226